

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第3部門第2区分

【発行日】平成18年1月26日(2006.1.26)

【公表番号】特表2005-520812(P2005-520812A)

【公表日】平成17年7月14日(2005.7.14)

【年通号数】公開・登録公報2005-027

【出願番号】特願2003-561661(P2003-561661)

【国際特許分類】

A 6 1 K 9/70 (2006.01)

A 6 1 P 17/00 (2006.01)

A 6 1 P 41/00 (2006.01)

A 6 1 L 15/44 (2006.01)

【F I】

A 6 1 K 9/70 4 0 1

A 6 1 P 17/00 1 0 1

A 6 1 P 41/00

A 6 1 L 15/03

【手続補正書】

【提出日】平成17年12月5日(2005.12.5)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

アミン基含有側鎖および共重合した疎水性モノマーを含む水溶性または水分散性のビニルポリマーであって、前記ポリマーのアミン当量が、少なくとも約300グラムポリマー/アミン基当量であるビニルポリマー；

水；

界面活性剤；および

ヒドロキシカルボン酸緩衝剤

を含む皮膜形成性組成物であって、

前記組成物の乾燥皮膜は永続性がある；

皮膜形成性組成物。

【請求項2】

アミン基含有側鎖および疎水性モノマーを含む水溶性または水分散性のビニルポリマーであって、前記ポリマーのアミン当量が少なくとも約300グラムポリマー/アミン基当量であるビニルポリマー；

組成物の全重量基準に少なくとも約0.25重量%の量で存在する活性物質；

水；および

界面活性剤；

を含む皮膜形成性組成物であって、

前記組成物の乾燥皮膜は永続性があり；

前記組成物は揮発性有機溶剤を実質的に含まない；

皮膜形成性組成物。

【請求項3】

アミン基含有側鎖および共重合した疎水性モノマーを含む水溶性または水分散性のビニ

ルポリマーであって、前記ポリマーが少なくとも約300グラムポリマー/アミン基当量のアミン当量を有するビニルポリマー；

水；および
界面活性剤；

を含み、

前記組成物の乾燥皮膜は永続性があり；

前記組成物の乾燥皮膜に感圧接着剤被覆物品が接着する；

皮膜形成性組成物。

【請求項4】

第四級アンモニウム基含有モノマーおよび(C₈~C₂₂)アルキル(メタ)アクリルモノマーを含むモノエチレン性不飽和モノマーから誘導される部分を含む皮膜形成性ビニルポリマー；1重量%濃度の水溶液状の前記ポリマーが、30分で、表皮ブドウ球菌(*Staphylococcus epidermidis*) ATCC菌株番号12228に対する抗微生物活性の少なくとも50%の減少を示す、皮膜形成性ビニルポリマー。

【請求項5】

アミン基含有モノマー；

約1wt%~約30wt%の(C₆~C₂₂)アルキル(メタ)アクリルモノマー；および

約15wt%~約75wt%の(C₁~C₄)アルキル(メタ)アクリルモノマー；

を含むモノマーから調製された水溶性または水分散性ビニルポリマーであって、該ポリマーのアミン当量が約300~約3000グラムポリマー/アミン基当量であるビニルポリマー；

水；および
活性物質

を含む皮膜形成性組成物を用いて、

局所薬剤を送達することを特徴とする方法。

【請求項6】

アミン基含有側鎖および疎水性モノマーを含む水溶性または水分散性のビニルポリマーであって、前記ポリマーのアミン当量が、少なくとも約300グラムポリマー/アミン基当量であるビニルポリマー；

水；および
ヨードフォア；

を含み、

前記組成物の乾燥皮膜は永続性がある；

皮膜形成性組成物。